今月の視点－141

「共通テスト」問題作成の方向性

外検「成績提供システム」は全入試で利用可能に！

旺文社 教育情報センター 2018 年 9 月

大学入試センターは 6 月、「『大学入学共通テスト』における問題作成の方向性等と本年 11 月に実施する試行調査（プレテスト）の趣旨について」を公表した。これは 11 月に行われる 2 回目の試行調査と共通テストの問題作成の方向性を示したもの。1 回目の試行調査の結果分析を踏まえ、新たな内容も盛り込まれている。入試改革の情報としては、3 月の外部検定に関するもの（いわゆる認定試験や新 CEFR）以来の大きな発表だ。

また、文科省からは共通テスト「実施方針（追加分）」が 8 月に発表された。こちらは外部検定に関する「高 3 で 2 回まで」ルールの例外を新たに示している。

ここでは「問題作成の方向性」を中心に、「実施方針（追加分）」の内容もあわせて見ていこう。

※本記事では基本的に、新たに判明した情報、あるいは進展のあった情報を中心に記載。原則、これまで公表されたものと変わらない情報は割愛。

全体

（各科目の問題作成の方向性は本記事の最後に記載）

・既卒生用の問題は作成しない。

・大学に提供する成績は、科目別の段階別評価（9 段階程度）も検討。

■■ 解説 ■■■

例で示した 4 割のゾーンは、大学からすればバランスの取れた受験生を確保することができる。一方、受験生にとっては不得意科目を得意科目でカバーすることはできない。

科目別の段階別評価は「参考情報」ということで、合否判定の中心は現状どおり素点だ。段階別評価の扱いは、当初は様子見の大学が多いだろう。しかしのちのち合否判定が大学ごとに超多様化する可能性も含んでいる。

■■■

■■ 解説② 成績提供システムの利用範囲 ■■■

●数学

・マーク式と混在で小問 3 問。
・「数式を記述」、「問題解決の方略を短い文章で記述」する問題を出題。
・試験時間は 60 分→70 分に延長（数学Ⅰ、数学ⅠA）。
・成績は素点。

■■ 解説① 数学の記述式 ■■■

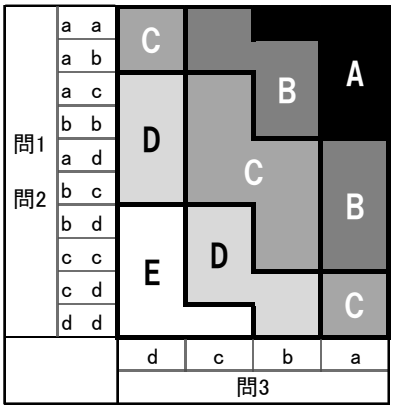
＜小問の採点②＞　解答類型／小問の段階別評価

解答類型	段階別評価
条件をすべて満たしている。 ・条件①～④＝すべて○	a
内容的な条件をすべて満たしているが、形式的な条件を一部しか満たしていない。 ・条件①、③、④＝○　（②のみ＝×） 　または ・条件②、③、④＝○　（①のみ＝×）	b
内容的な条件をすべて満たしているが、形式的な条件をすべて満たしていない。 ・条件③、④＝○　（①、②＝×）	
内容的な条件の半数以上を満たしている。（形式的な条件を満たしているかは問わない） ・条件①、②、③＝○　（④のみ＝×） 　または ・条件①、②、④＝○　（③のみ＝×） 　または ・条件①、③＝○　（②、④＝×） 　または （以下、省略）	c
形式的な条件をすべて満たしているが、内容的な条件をすべて満たしていない。 ・条件①、②＝○　（③、④＝×）	e
形式的な条件を一部を満たしているが、内容的な条件をすべて満たしていない。 ・条件①のみ＝○　（②、③、④＝×） 　または ・条件②のみ＝○　（①、③、④＝×）	
正答の条件を1つも満たしていない。	
上記以外の解答	
無解答	

※ 試行調査 自己採点用紙および結果報告をもとに旺文社が作成。
※ あくまでイメージであり、前ページの表の内容とは厳密には対応していない。

「正答の条件」との一致パターン（解答類型）により、小問別の段階別評価を判定。
↓
小問の評価が確定（4 段階）。

＜大問の採点＞　大問の段階別評価

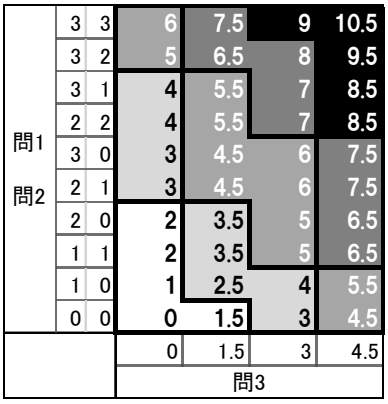


※大学入試センター「問題作成の方向性」（2018年6月）より。

小問の評価を総合し、大問を評価（総合評価）。
問 3 は 1.5 倍のウエイト。
↓
大問の評価が確定（5 段階）。

「問 1（文字数＝少）、問 2（＝中）」と「問 3（＝多）」の a～d 評価を組み合わせた大問の評価 A～E は左表のようになる（A～E の分布はイメージで検討段階）。

【検証】なぜ A～E は上記の分布になるのか



各評価に仮の数値を当てはめてみた。
a=3／b=2／c=1／d=0（問 3 は 1.5 倍）

その結果が左表。
8.5～10.5＝A／6.5～8＝B／4.5～6＝C／2.5～4＝D／0～2＝E
だとすると、確かに上表の分布になる。

(c)2018 旺文社 教育情報センター

マーク式問題の新たな解答形式

・当てはまる選択肢をすべて選択する問題、前問と連動して正答の組み合わせが複数ある問題などを検討。来年度初頭に実施の有無を公表。

■■ 解説 ■■■

各科目の「問題作成の方向性」

（記述式については P.3 を参照。以下、国語・数学については一部、記述式の内容も含む）

●外国語（英語）　※特に試行調査の方針

・試行調査は、「筆記」「リスニング」は均等配点で実施。今後検証。
・出題範囲はコミュ英Ⅰ・Ⅱ、英語表現Ⅰ（現状ママ）。CEFR の A1～B1 相当 。
・実際のコミュニケーション場面を重視。

＜筆記＞

・「筆記（リーディング）」と表記し、4 技能のうち Reading の性格を明確化。
・発音、アクセント、語句整序などは出題しない。
・テキストの情報を整理する力、構成を理解する力、要約する力などを問う。

＜リスニング＞

・複数の情報を比較して判断する力、議論の要点を把握する力などを問う。
・アメリカ英語以外の読み上げも行う（イギリス英語や英語を母語としない話者による）。
・試行調査は 1 回読みと 2 回読みが混在する構成で実施。今後検証。

●国語

・言語活動の過程を重視。
・新たに「実用的な文章」を題材とする。
・出題対象となる題材は、近代以降の文章（論理的な文章、文学的な文章、実用的な文章）、古典（古文、漢文）。
・与えられた情報を正確に読み取り、多面的・多角的な視点から解釈することなどを求める。
・分野を越えた題材や、同一分野の複数の題材を組み合わせたりする問題も出題。
・マーク式の成績は、現古漢全体の素点での提供を原則（大問別での提供も検討）。

●数学（ⅠA、ⅡB）

・問題解決の過程を重視（日常の事象に対する数学的な問題解決など）。
・事象から数学的な問題を見出す／構想・見通しを立てる／数・式、図、表、グラフ等を活用する／解決過程を振り返り、得られた結果の意味づけや、活用することなどを求める。
・教科書で扱われていない数学の定理を、既知の知識を活用して導くような問題も出題。

●地理 B

・多面的・多角的に考察する過程を重視。
・空間的な規則性を分析して地域性を捉えることや、地域の課題を理解し、将来像について構想していくことなどを求める。
・系統地理と地誌の両分野からのアプローチした問題も含む。

(c)2018 旺文社 教育情報センター

●世界史 B、日本史 B

・多面的・多角的に考察する過程を重視。
・用語の知識ではなく、事象の意義、相互の関連などについての理解を求める。
・教科書で扱われていない初見の資料を扱うこともある（既知の知識を活用して考察)。
・時代や地域によらない「歴史の見方」のようなテーマを設定した問題、時間軸を長く取った時代を貫く問題なども含む。

●現代社会

・現代社会の課題や、人間の生き方などについて多面的・多角的に考察する過程を重視。
・概念や理論を社会的事象に適用して考察する問題や、各種の統計などに対してさまざまな立場から考察する問題などを出題。

●倫理

・倫理的諸課題について多面的・多角的に考察する過程を重視。
・資料を読み解き、先哲の基本的な考え方等を手掛かりに考察することを求める。
・倫理的な考え方を働かせて思考したり、批判的に吟味したりする問題や、原典資料や芸術作品などの資料を手掛かりとして、さまざまな立場から考察する問題などを含む。

●政治・経済

・現代における政治、経済、国際関係等について多面的・多角的に考察する過程を重視。
・社会的事象や、各種統計などの資料に対し、概念や理論を活用して考察することや、さまざまな立場から考察することを求める。

●物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎

・日常生活の現象に対して、科学的な概念や原理・法則を用いて理解・考察・探究する過程を重視。
・自然現象の中から本質的な情報を見出し、考察・推論することを求める。
・仮説を検証する過程で、数的処理を伴う思考力等を求める問題なども含む。

●物理、化学、生物、地学

・科学的な探究の過程を重視。
・自然現象の中から本質的な情報を見出し、考察・推論することを求める。
・教科書等では扱われていない資料を扱った思考力等を問う問題や、仮説を検証する過程で、数的処理を伴う思考力等を求める問題なども含む。
・各科目で設定していた大問の選択問題は廃止の予定（全問必答)。

(c)2018 旺文社 教育情報センター

■■ 解説 ■■■